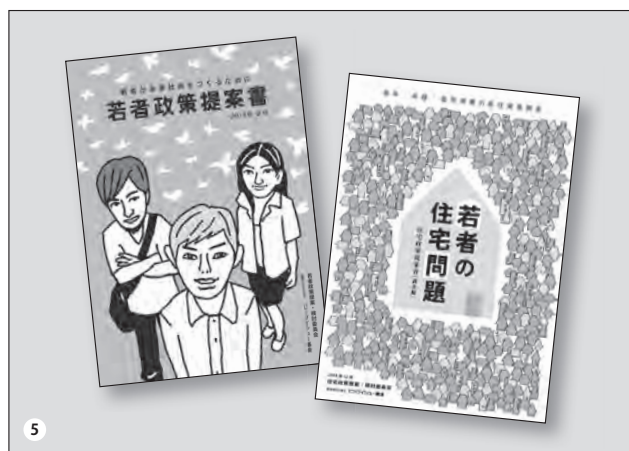




“個が肯定され包摂される”社会をつくる
認定 NPO 法人 ビッグイシュー基金
第 8 期 (2014 年 9 月 ~ 2015 年 8 月)
年次報告書



① 枝元理事による料理教室@大阪サロン ② 「ソケリッサ！」公演中の一枚 ③ 書初め大会@東京サロン ④ 「市民が考える！若者の住宅問題&空き家活用」シンポジウム ⑤ 『若者政策提案書』 & 『若者の住宅問題—住宅政策提案書〔調査編〕—』 ⑥ 各地の『路上脱出ガイド』 ⑦ ダイバーシティカップ (photo: 横関一浩)

- 03 はじめに
- 04 ホームレス問題解決への実践的政策提案と実験的事業への着手
活動概要
- 05 つながって生きる
生活自立応援プログラム
- ・何があっても大丈夫
当事者への情報・交流機会などの提供
 - ・普通のくらしを取りもどす
各種相談活動、被災地支援
- 07
- ・「空き家」と「住宅困窮者」のマッチングモデルを模索
ステップハウス事業
 - ・仕事がしたい
仕事・就業応援プログラム
- 09
- ・生きていてよかった
スポーツ・文化活動プログラム
- 11 **生きやすい社会をととのえる**
ホームレス問題解決の実践的ネットワークと政策提案
- ・若者をホームレスにしない
社会的不利・困難を抱える若者応援事業
 - ・くらしの基盤をつくる
住宅政策提案事業
 - ・依存症からの脱却
ギャンブル依存症問題調査提案事業
- 13 **市民が社会をつくる**
ボランティア活動と市民参加
- 15 **ありがとうございました**
市民・組織・団体・企業のご協力とご参加
- 16 **決算報告**
- 18 **誰にでも居場所と出番のある“包摂”社会をつくる**
ビッグイシュー基金とは
- 19 **あなたの寄付が社会を変えます**
会員・寄付制度について



ビッグイシュー基金は、これを読んでもくださるあなたさまはじめ、多くの市民のみなさまとともに活動をさせていただき、第8期の活動を終わることができました。私たちの活動にかかわり応援してくださった数え切れない人々、活動を必要としてくれた社会に心より感謝します。ありがとうございました。

一方、社会においては、憲法が解釈で変えられ、立憲主義に反して「安保法制」が強行採決されるなど、“個が否定され排除につながりかねない”風潮もあり、私は大変心配しています。

セルフヘルプを応援——現場も政策提案も

基金の活動の出発点は、ホームレスの人と市民の新たな関係をつくることでした。社会から排除された人々の問題を放置しないで、「問題の当事者が問題解決の担い手になる」「当事者のセルフヘルプを応援する」という考え方で取り組んできました。

第1期(07.9～08.8)から第4期(10.9～11.8)の活動は、「路上脱出ガイド」の配布、ホームレスの人たちとスポーツ文化活動をすすめたり、東日本大震災・福島第一原発事故に際しては持てる力を挙げて「ともに生きよう！東日本」と応援を行いました。いわば、現場を中心に活動を展開しました。

そして、第5期(11.9～12.8)から第7期(13.9～14.8)は、「誰もが排除されず包摂される社会へ」という活動の基本方向を決め、「自立応援」「問題解決へのネットワークと政策提案」「市民参加」の3つの柱をたて、住宅政策、若者ホームレス白書から若者応援プログラム集、若者政策、などの提案を行いました。現場での活動に加え、調査や政策提案も行った3年間でした。

実践的政策提案と実験的事業へも着手

この第8期においては、若者の自立を阻み生活困窮を生む「若者の住宅問題」の実態を明らかにし、「若者政策」を提案し、新しい「出口≡仕事づくり」の方策を考える「シビックエコノミー」について内外の事例調査にも取りかかりま

した。また、ホームレスの人々の自立への壁となる「ギャンブル依存症」問題の政策提言や、多様な問題をもつ当事者が直接、参加交流できる空間「ダイバーシティカップ」の創造、路上からアパートへの「ステップハウス」の実験的な事業も始めました。「ホームレス問題の解決への実践的政策提案と実験的事業への着手」を行い、現場、調査・提案に加え、実験的事業へも幅を広げたのが、第8期の活動でした。

開かれ、議論できる楽しい場へ

これらを1,000人余のボランティア、2,600人をこえる寄付参加者のみなさまとともに、多くの企業や団体からもご協力をいただきました。特に、複数の個人の方から大口寄付をいただき、今期決算では多額の剰余金を計上することができました。これらは10周年にむけ、実験的事業などに活用させていただきたいと思っています。本当にありがとうございました。

これからも基金は、ホームレス当事者を中心に、市民応援会員、寄付参加者、多様なボランティアをはじめとする多くの市民が集う身近な“場”、開かれ、語り合え、議論でき、社会へ提案し貢献できる、ワクワクする楽しい“場”であり続けたいと願っています。そして、“個が肯定され包摂される”社会をつくることに寄与できればと願っています。

どうか、この報告書を読まれ、基金の活動・事業への忌憚のないご意見を、そして、ご参加いただきますよう心からお願いします。

2015年11月15日

認定NPO法人ビッグイシュー基金理事長



Photo: 高松英明

第8期では当事者主体の生活自立応援にくわえ、若者の住宅問題の実態調査をし、若者をホームレスにしないための若者政策の提案を行いました。また、彼らの新たな「出口≡仕事づくり」の事例調査や、ホームレス自立支援の壁「ギャンブル依存症」問題にも取り組みました。さらにスポーツを通して当事者が直接、参加・交流できる場の創造、脱路上へのステップハウスの実験的事業を行いました。「ホームレス問題の解決への実践的政策提案と実験的事業への着手」をしたのが第8期の活動でした。

【ホームレスの人々の自立応援事業――情報提供、相談、仕事・就業、クラブ活動など】

定例の夜回りや炊出し巡回を通じて路上生活者に情報を提供。交流の場である月例サロンでは、川柳講座、料理教室、仕事・就業問題などを当事者とともに企画運営しました。

路上や図書館で読むことのできる情報媒体『路上脱出ガイド』作成事業では、4月からの生活困窮者自立支援法施行に伴い、東京版を改訂。官民の相談窓口の情報の充実など、路上化予防の側面をさらに強めた内容にしました。

生活自立応援では、健康、依存症、法律など各種の相談の他、金銭管理、福祉制度へのつながりを応援。住居支援では、路上からアパートへのステップハウス5室、緊急用シェルター2室の実験的運用を始めました。

仕事・就業応援では、雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売サポートスタッフと連携し、販売の仕事を応援、また希望者に就労に関する情報を提供しました。

さらに、スポーツ・文化活動では、ダンスチームやサッカー、歩こう会、英会話、野球、鉄道などのクラブ活動に加え、カレー部などが発足しました。サッカーでは、うつ病などの人、引きこもり経験者、LGBTの人など10団体、200人が集まり「ダイバーシティカップ」を開き直接的な交流をしました。ダンスチームはシンガーの寺尾紗穂さんの全国ツアーに同行しました。

被災地支援では、現地の支援団体を訪問し、

オンラインで情報発信の応援をしました。

【ホームレス問題解決の実践的ネットワークと政策提案】

住宅問題では若年・未婚・低所得層の居住実態調査を『「若者の住宅問題」―住宅政策提案書[調査編]』（A4版/40p.）としてまとめ、5,000部を発行。発表シンポジウムを東西で開き、延べ333人が参加しました。

若者のホームレス化予防でもある「社会的不利・困難を抱える若者応援事業」では、『若者政策提案書』（A4版/32p.）を5,000部発行。見えてきた課題である「出口≡仕事づくり」への有効な方策「シビックエコノミー」の推進を検討するため、国内外の事例調査を行いました。

また、当事者の生活再建や自立への高い壁であり、サポートのハードルにもなっていた「ギャンブル依存症」問題の検討を進めました。

【ボランティア活動と市民参加――ボランティア、寄付参加、そして広報活動】

ボランティア希望者へは毎月説明会を開き、また、自身によって運営してもらう「ボランティアカフェ」を開きました。今期のボランティア登録者は東京510名、大阪395名、札幌から鹿児島まで各地で約97名、合計1,002名となっています。

そして8期の市民応援会員は453名、企業などの会員は3件でした。「出会い寄付」など、5つの寄付メニューへの参加者は735名、任意寄付参加者は928名、その他寄付者（チャリボン等）498名、大口寄付2名、あわせて寄付参加者は延べ2,163名となりました。市民応援会員、寄付参加者あわせて延べ2,619名、会費と寄付額はあわせて5,299万円となりました。

また社会への広報としては、基金便りや通信「希望前線」を各24回発行。このほかソーシャルメディア等で情報発信し、新たにNPO向け無償提供広告のGoogle AdWordsを活用。マスメディアにも、脱出ガイドや報告書『若者の住宅問題』の調査結果などが取り上げられました。

当事者の生活の自立をサポートするために、情報提供、健康や住宅や仕事などの相談、スポーツ・文化の活動を行いました。路上の状況変化に対応するため定例の夜回りの頻度を多くする一方、定例サロンや映画会など、ホームレス当事者の人々が主体者となって関われる機会を増やしました。

【何があっても大丈夫―当事者への情報・交流機会などの提供】

路上脱出ガイド

ガイドの発行は2008年1月に始まりました。今期は、11月に熊本版、12月に札幌版、2015年8月に東京版をそれぞれ改訂しました。東京23区編は、改訂5版となり、4月に施行された生活困窮者自立支援法の制度の説明と、相談受付が可能な官民の窓口を掲載しました。

『路上脱出ガイド』は、路上を生き抜く上で必要な炊出しや緊急支援の情報、仕事をしたい時や生活保護の申請など路上脱出に役立つ情報に加え、最近では、路上に出ないための予防的な情報を増やしています。2015年現在、札幌、東京、名古屋、京都、大阪、福岡、熊本の全国7地域で発行、これらは基金HPからPDF版をダウンロードしていただけます。東京・大阪以外の「ガイド」は、各地域のビッグイシューボランティアを中心に編集・発行作業が行われています。

初版発行以来、東京では58,913部、大阪では24,498部を配布。主に、路上での手渡しや公共図書館を通じた配布を行っています。公共図書館には東京で9,695部、大阪で3,181部を送付しています。新たに都内のお寺での配布協力も始まりました。



道端交流会・夜回り

ホームレス当事者が各種支援につながる窓口の一つとして、(有)ビッグイシュー日本との合同で月4回の夜回りを行い、情報提供の機会などを増やしました。大阪では前年に引き続き、路上生活者の方に、クラブ活動など基金のプログラムを掲載し、参加を呼びかける「ビッグイシュー通信」(月2回発行)を配布。また、路上生活者の楽しみの機会である「道端交流会」は、映画をメインプログラムとし、夜回りの際のアンケートで上映映画を決めてもらい、計12回、延べ117人が参加しました。

食料品の提供

大阪では「フードバンク関西」から月2回配達される食料品を夜回りや事務所などで提供しました。東京では個人の方、UBSグループなどの企業から寄付されたお米などをおにぎりにして提供しています。

定例サロン

ホームレス当事者が自発的に参加し交流する場づくりとして、東京・大阪で毎月1回「定例サロン」を開きました。「路上で出来るセルフボディケア講座」や「川柳講座」「亡くなった仲間の追悼会」などの他、仕事や生活に関して当事者が主体となって交流し、議論できる場を提供しました。

クリスマス・越年の活動

大阪で恒例となったホームレス・クリスマスパーティは、今期も当事者主体の実行委員会により企画・運営。「路上まじわる 100人トークと音楽の夕べ」と題し、66人の当事者と100人余りのボランティア・市民が参加、テーマトークを楽しみました。

越年・越冬の活動では、池袋と大阪市西成区での越冬の活動にカンパを行いました。また、年末年始に役所が連休となり支援が手薄になるため、簡易宿泊所、ネットカフェ宿泊費用の半額サポートを行いました。



大阪ホームレス・クリスマスパーティ



東京：料理教室サロン

【普通のくらしを取り戻す——各種相談活動】

各種相談の場、定例の個別相談日を設け、相談者の希望によって弁護士や医師、カウンセラーなど、専門家につなぎ、普通の暮らしを取り戻すサポートをしています。

福祉・健康相談

大阪では月1回、府保険医協会と歯科保健研究会の協力を得て、内科と歯科の定期検診を開き、延べ112人が受診しました。服薬や継続的な治療が必要な人には無料・低額診療制度がある総合病院につなぎ、8人が受診に至りました。入院中やその後も病院のソーシャルワーカーと意見交換を行い、救護施設やケア付き住居サービスを提供する団体と連携するなど、医療や住まいの環境を整えるサポートを行いました。

東京では8月にボランティアの医師、看護師、歯科医、歯科衛生士、鍼灸師など計12名にご協力いただき、健康相談会を実施しました。相談会には計14人が参加、体調管理や健康に関する相談の他、必要な人を医療機関につなぐことができました。

その他、認知症の疑いがある方の医療機関への同行や、ギャンブルなど依存傾向にある方への自助会に関する情報提供や同行、精神保健福祉士と連携した障害年金取得手続きのサポートなどを行いました。また、今期は4人の方が亡くなられ看取りをしました。Kさんの場合、事務所で倒れられ、説得のうえ救急車で病院へ。心筋梗塞の診断を受け、精密検査までの間の一時退院の際、容態が急変し亡くなられました。警察の協力を得た身元確認でも、家族がわからず福祉葬を行いました。



東京：健康相談会の様子



大阪：歯科相談の様子

住宅相談

住居支援を行う団体との連携や、協力的な家主や不動産業者からの初期費用や保証人不要の低廉な家賃の物件情報を提供し、4件の入居サポートをしました。また、日常的には入退居の際の手伝いや、住民票移動のサポート、インターネットを通じた家具、布団などの寄付募集やマッチングを行いました。

法律相談

路上生活者の法的サポートに詳しい弁護士と連携して7人の当事者の法律相談に対応し、相談同行や書類作成などのサポートを行いました。住所設定のための戸籍状況の確認や、過去の多重債務の整理など、多様な相談がありました。

金銭管理

路上での現金保持が危険なこと、住所がないために銀行口座を持っていない人がいることから、希望により自立に向けた積立金の預かりサポートをしました。アパート入居の初期費用や、就業のためにかかる経費の積立を目的として延べ34人の利用がありました。また大阪では希望者に向けて各種年金の支払い状況のヒアリングをし、年金情報の照会や、受給手続きのサポートなどを行いました。

被災地支援

被災地支援では、被災地を訪問し、路上の状況と支援団体の活動を現地取材しました。これをビッグイシューオンラインに掲載し、被災地からの情報発信の応援をしました。

ビッグイシューオンライン：<http://bigissue-online.jp/>

「空き家」と「住宅困窮者」のマッチングモデルを模索——ステップハウス事業

空き物件や連携団体が管理するアパートを基金で借り受け、ホームレス状態の人に安価な利用料で貸し出し、利用料の一部を積立金にして、入居期間中に次のステップへの資金も蓄えられる「ステップハウス」事業を開始しました。

東京では一般社団法人「つくろい東京ファンド」（代表理事・稲葉剛氏）と業務提携し、中野区の物件の内2室をステップハウスとシェルターとして継続運用しました。今期中にステップハウス2人、シェルター8人の利用があり、ステップハウス利用者2人は積立金を元手に一般アパートに入居、シェルター利用者のうち1人は新たな仕事をえました。7月からは新宿区内の物件「ふらっとハウス」に場所を移し事業を続けています。

大阪では協力家主の方からの「空きマンションを活用してほしい」という申し出を受けて、ステップ

ハウス 4 室とシェルター 1 室を新設。愛称は「悟楽堂」です。「悟楽」というのは家主さんのご親族で、同物件を建てた方の通名です。



「ふらっとハウス」室内の様子



「悟楽堂」室内の様子

【仕事したい——仕事・就業応援プログラム】

雑誌「ビッグイシュー」販売者の応援事業

ホームレス状態の人が再び就職するための足掛かりとして、ホームレスの人しか売れない雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売を推奨し、仕事を継続する上で必要なサポートを行いました。現在、ビッグイシュー誌を販売している販売者は全国で 124 人。定期的に販売場所でのヒアリングを行い、各種相談事業につなげる形でサポートをするほか、夏の暑い時期には定例サロンで熱中症予防講座を開き、また、販売サポートスタッフと協力、ボランティア手製のスポーツドリンクの配達もしました。



ビッグイシュー販売の様子

就業応援の連携事業

依存症傾向や鬱傾向などの心の問題を抱える人に向け、自立への道すじを考えるきっかけづくりとして、ソーシャルワーカーやカウンセラーなどの専門家と連携し、コーチングやカウンセリングの場を提供しました。

7 月には日本 POP サミット協会から講師を招き、雑誌販売等の仕事に役立つ宣伝や広告作りを学ぶ POP 作成講座を実施しました。

また連携 NPO が実施する、清掃や自転車整理の仕事、各種職業訓練に関する情報提供を行うほか、企業や支援者から寄せられた就業先の情報を提供しました。



販売 POP 講座の様子

ビッグイシュー卒業生・就業者への関わり

住居を得てビッグイシューを卒業した方とも、年賀状のやりとりや、定例サロン、パーティ、クラブ活動などへの参加も呼びかけ、継続的に交流しました。

「働きやすさ」を整える

プロの美容師の協力を得て季節に 1 回程度のヘアカットを実施しました。また寄付の衣料品や靴、キャリーバッグの提供、安価な自転車の購入をあっせんするなど、働きやすくなるようサポートを行いました。

【生きていてよかった——スポーツ・文化活動プログラム】

ビッグイシュー基金では「スポーツ・文化活動」を重視しています。人は一人ぼっちになってホームレスになります。そんな人や路上生活を抜け出した方が、人とのつながりをつくり、生きる喜びや意欲を回復する機会になるからです。前7期から始めたクラブ活動への半額補助（当事者が3人以上集まり申請すれば活動経費の半額分を補助）により活動の幅が広がったほか、新たに社会的不利・困難を抱える若者がスポーツを通じて直接交流できる「ダイバーシティカップ」を創造し、ダンスチーム・ソケリッサ！は全国公演を行いました。

スポーツ活動——多様性をかたちにした「ダイバーシティカップ」

大阪にある野球部「レッドキャプス」は、月1回の練習に加え、恒例となった定時制高校野球部との交流試合や、発展途上国での野球の普及を支援する団体との合同練習を行うなど活発に活動しました。またサッカーや卓球、ボウリングなど、当事者や市民が楽しみながら交流する場を継続的に開きました。

東京では、前期にはじまったボウリングクラブが継続的に活動し、1年間で延べ68名が参加しました。初心者の人でも楽しめるようにとゲーム開始前に目標スコアを決め、そのスコアを最も大きく上回った人を優勝にするなど、独自のルールを考え楽しみました。

ホームレスサッカーチーム「野武士ジャパン」は、東京と大阪で月2回、ボランティアの方や当事者を交えた練習を実施しました。

また、新たに「スポーツフォーソーシャルインクルージョン実行委員会」を結成。7月にホームレス状態の人だけでなく社会的不利・困難を抱える若者がサッカーを通じて直接交流する「ダイバーシティカップ」を開催しました。インターネットで開催資金協力を呼びかけたクラウドファンディングを通じて104名の方から106万円の応援をいただきました。ひきこもりやうつ病、不登校の経験者、養護施設や東日本大震災の被災地の若者、LGBTの方など、多様な背景を持つ人たちがそれぞれチームを作り、10チーム146名が参加。大会後の交流会では「また大会を開催してほしい。1度で終わらず定期的に交流していきたい」という声も聞かれ、来期には第2回大会や合同練習などを計画しています。



ダイバーシティカップ集合写真



ビッグイシュー・レッドキャプス

文化活動——自主的な活動のひろがり

大阪では、2007年に活動を開始した街歩き「歩こう会」が75回目の開催を迎えるとともに、鉄道部は姫路遠征に出かけるなど、継続的な自主活動が実施されました。また、ボランティアの方からの碁石の寄付をきっかけに始まった囲碁部、ストリートライブを目標に立ち上がった音楽クラブなど、新たな活動も広がりました。

東京では英語クラブがボランティアの協力を得て23回の「路上で使えるイングリッシュ」の勉強会を行い、延べ116人が参加しました。路上で仕事をしている際に使える、外国の方に向けた英語での

道案内ワードを学ぶほか、クリスマスパーティでは聖歌「Joy to the world」を原詩で披露しました。カレー部は7月に発足したばかりですが、明治時代の海軍カレーを再現するなど、参加者でレシピや企画を考え、買い出し、調理を行い、事務所などで当事者、ボランティアにふるまいました。「食」や「調理」は路上生活を抜け出した後も生活の基盤となります。



英語クラブのクリスマスコーラス



ビッグイシュー・カレー部



囲碁部

コンテンポラリーダンス・チーム「ソケリッサ！」は、リーダーでプロのダンサーであるアオキ裕キさんが2014年に一般社団法人アオキカクを立ち上げ、独自の静岡公演を行い、歌手の寺尾紗穂さんの「楳円の夢全国ツアー」に同行し、14の都市を回り公演を行いました。クラウドファンディングで実現した今公演は、今まで活動を見る機会が少なかった地方の方に披露する場となりました。



「ソケリッサ！」寺尾紗穂さんと



公演中の一コマ

路上文学賞では、来期の第4回開催に向けて、作家の星野智幸さん、カメラマンの高松英昭さんを中心とした「路上文学賞実行委員会」と連携し、全国の路上生活者や路上生活経験者に向けて募集告知を開始しました。来期の、2015年11月に受賞作を発表の予定です。詳細は路上文学賞オフィシャルHPをご覧ください。<http://www.robun.info/>



「路上文学賞」作品募集告知バナー

【若者をホームレスにしない——社会的不利・困難を抱える若者応援事業】

今期の取り組み——『若者政策提案書』の発行

若者の貧困や孤立を防ぐための政策を提案したいと考え、第7期に「若者政策提案・検討委員会」(※)を立ち上げ、『若者政策提案書』発行に向けた議論を重ねました。

(※) 宮本みち子委員長(放送大学副学長)／青砥恭委員(NPO 法人さいたまユースサポートネット代表)／白水崇真子委員(一般社団法人キャリアブリッジ代表理事)／高橋温委員(弁護士・NPO 法人子どもセンターてんぼ理事)／津富宏委員(静岡県立大学教授・NPO 法人青少年就労支援ネットワーク静岡理事長)

第8期の2014年12月に『若者政策提案書・案』発表シンポジウム(東京・新宿)を開催、163名が参加しました。この討論をもとに、2015年2月には『若者政策提案書』(A4版/32p.)を5,000部発行し、これまでに2,700部を配布しました。



『若者政策提案書』表紙



『若者政策提案書・案』発表シンポジウムの様子

※会場提供協力：損害保険ジャパン日本興亜株式会社

「出口≒仕事づくり」の可能性——シビックエコノミー事例調査事業

『若者応援プログラム集』『若者政策提案書』発行などの活動から見てきたことは、社会的不利・困難を抱える若者のための「出口≒仕事づくり」が極端に不足していることでした。これを補う受け皿として、社会問題解決への取り組みと、仕事の場を同時に提供できる「シビックエコノミー」推進団体の事例調査に着手し、その可能性を検討しました。約200団体をリストアップし、うち16団体を実際にヒアリングしました。また、これら推進団体を応援する仕組みを幅広く検討するため、8月に英国を訪問し、ロンドンのビッグイシュー・インベストや彼らが応援している諸団体を調査しました。

これからの計画

8期から取り組んできたシビックエコノミー事例調査事業を継続し、社会的不利・困難を抱えた若者応援に結びつく「出口≒仕事づくり」への可能性をもつ団体を中心にシンポやフォーラムを行います。また、英国での調査内容を踏まえ、活動団体のステップアップにつながる市民型ファンドでもある市民的投資銀行設立の可能性を検討します。

【くらしの基盤をつくる——住宅政策提案事業】

今期の取り組み——調査報告書『若者の住宅問題——住宅政策提案書〔調査編〕』の発行

基金では住宅問題の改善が「貧困問題解決の要」と考え、6 期に設けた「住宅政策提案・検討委員会」（平山洋介委員長）とともに活動をしてきました。

8 期では、7 期に実施した、首都圏／関西圏に住む若年、未婚、低所得の男女を対象とした調査の結果を、報告書『若者の住宅問題——住宅政策提案書〔調査編〕』（A4 版 / 40p.）にまとめ、5,000 部発行しました（※）。これは、自治体での若年者向け家賃補助検討のための根拠資料や、内閣委員会での質問資料として使われるなど幅広く活用され、これまでに冊子版 4,364 部、PDF 版 15,025 部が閲覧されています。

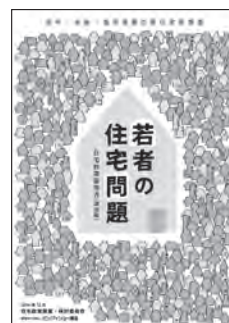
東京・大阪で市民参加型シンポジウムを開催

報告書だけではなく 2 月と 5 月に市民シンポ、東京・「市民が考える若者の住宅問題」、大阪・「市民が考える！若者の住宅問題&空き家活用」（※）を開きました。

特に、大阪では NPO、不動産業者、自治体も参加、「空き家」と若い住宅困窮者の問題を結び付け、解決が出来ないかを議論しました。東西でのべ 333 人の参加者があり、具体的な提案が相次ぎました。



大阪シンポジウムの様子



『若者の住宅問題』表紙

これからの計画

住宅困窮者と空き家のマッチング事例としてステップハウスを運用します。また民間による住宅問題への取り組みや、ネットワークの形成などを応援します。

※『住宅政策提案書』、『若者の住宅問題』、『大転換！住宅問題「市民が考える！若者の住宅問題&空き家活用」シンポジウム報告書』は基金 HP よりダウンロード可能です

【依存症からの脱却——ギャンブル依存症問題調査提案事業】

2014 年、厚労省研究班は「ギャンブル依存症 536 万人」という衝撃の数字を公表しました。ギャンブルを含めた依存症問題は、ホームレス状態にいたるきっかけであり、そこからの脱出を阻む足かせでもあることから、ホームレスの人々の自立を目指すビッグイシュー基金にとって見過ごせない問題です。そこで、理事の米本昌平氏を中心に、今夏、ギャンブル依存症問題研究グループを発足し、調査報告書発行に向けた議論を集中的に重ねてきました。

来期早々の 10 月半ばに、これまでの議論をまとめた報告書『疑似カジノ化している日本——ギャンブル依存症はどういうかたちの社会問題か？』（A4 版 / 34p.）を発行し、希望者には無料配布します。（送料はご負担下さい）さらに、9 期にも引きついで海外調査や自助グループと連携した当事者へのヒアリングを行い、依存症者を支援する具体的方策を探ります。

参加のチャンスをつくる―ボランティア参加プログラム

今期のボランティア登録者数は、東京 510 名、大阪 395 名の登録の他、札幌、仙台、立川、横浜、川崎、三鷹、名古屋、京都、岡山、福岡、熊本、鹿児島などの各地サポーターで約 97 名、あわせて計 1,002 名でした。また 8 期は学生から社会人経験者まで 5 名のインターンを受け入れ、半年～1 年の契約期間中にイベントやクラブ活動の運営など、ホームレス問題に主体的に関わる場と機会を提供しました。

大阪ではボランティア同士の交流の場「ボランティアカフェ」の活動が継続。2 度の企画・運営会議を開催し、クリスマスパーティでの活動報告や、ステップハウスの大掃除などを行いました。ここから派生して、地域のコミュニティスペースに集まって雑誌『ビッグイシュー日本版』の読者会が開催されるなど、新たな活動も広がりました。

定例の参加プログラムである、月 2 回の会報誌発送作業やフットサル練習にも多くのボランティアの方にご参加をいただきました。その他にも熱中症対策ドリンク作成、おにぎり作り、月例サロンでのランチの調理と提供など、多様な形のご参加がありました。



ドリンク作成ボランティア時の一コマ



東京：ボランティア説明会の様子

ボランティア説明会―東京・大阪で毎月 1 回開催

ホームレス問題やビッグイシュー基金の活動をより多くの人に知っていただくために、東京・大阪で定例の説明会を開催しています。説明会へのご参加後、希望者にはボランティアメーリングリストに入ってください、定期的にボランティア情報をお伝えしています。

◇東京：第 2 土曜日 13 時～（場所：東京事務所）

◇大阪：第 2 または第 4 土曜日 15 時～（場所：大阪事務所）

※ ボランティア説明会への参加を希望される方は、ビッグイシュー基金（メール：大阪 info@bigissue.or.jp、東京 tokyo@bigissue.or.jp、電話：大阪 06-6345-1517、東京 03-6380-5088）までご連絡をお願いします。

寄付参加プログラム

市民応援会員は以下のとおりでした。

にっこり（345 名）／ひとり立ち（108 名）計 453 名（寄付金額 1058 万円）／企業・団体 サポーター計 3 件（寄付金額 175 万円）

寄付メニューへの参加は以下のとおりです。

出会い（309 名）／つながりウォーク（214 名）／実践応援ラン（83 名）／社会包摂マラソン（74 名）／市民信頼社会（55 名）計 735 名（寄付金額 1,455 万円）

任意寄付は 928 名、大口寄付は 2 名、その他寄付（チャリボン等）は 498 名と、あわせて寄付参加者は延べ 2,163 名（寄付金額 2,612 万円）でした。今期は、（有）ビッグイシュー日本の当初からの支援者と、長年、市民応援会員としてサポートしてくださっている方より大口の寄付参加がありました。

会員と寄付参加者は合計延べ 2,619 名、寄付金額では合計 5,299 万円となり、7 期の繰越金とあわせて、8 期は多額の剰余金を計上することができました。

物品寄付については、Facebook などを通じて寄付募集を行いました。基金を継続的にサポートいただいている企業や連携団体、たくさんの市民の方から提供された食料品や衣料品、医薬品、生活用品やタオル等の物品を、随時当事者の方に提供しました。

広報——web を通じたアクセスチャンネルを増加

広報活動としては、基金便りや基金通信「希望前線」を各 24 回発行の他、ホームページ、ビッグイシューオンライン、ソーシャルメディアによる情報発信に加え、新たに検索サイトで「ホームレス」、「空き家」などの単語から基金 HP に誘導する広告文を表示する、グーグル社提供のシステムを導入しました。マスメディアにも、路上脱出ガイドや報告書「若者の住宅問題」の調査結果などが取り上げられました。

メディア掲載

(新聞)

- 2014 年 12 月 18 日 毎日新聞 「若者の住宅問題」の紹介
- 2014 年 12 月 19 日 しんぶん赤旗 「若者の住宅問題」の紹介
- 2014 年 12 月 23 日 東京新聞 「若者の住宅問題」の紹介
- 2015 年 2 月 16 日 朝日新聞 「路上脱出ガイド」設置図書館の増加
- 2015 年 2 月 27 日 中日新聞 「若者の住宅問題」調査結果の紹介
- 2015 年 3 月 12 日 朝日新聞 「路上脱出ガイド」図書館への設置の広がり
- 2015 年 3 月 29 日 読売新聞 「若者の住宅問題」調査結果の紹介

(雑誌)

- 2015 年 1 月 1 日 月刊ガバナンス 「若者政策提案書」発表シンポジウム開催
- 2015 年 2 月 1 日 月刊誌WAM 貧困問題への取り組みとして基金の事業紹介
- 2015 年 6 月 1 日 住宅会議 「若者の住宅問題」と東京・大阪のシンポジウム開催の紹介
- 2015 年 6 月 8 日 週刊ビル経営 社会貢献事業としての空家活用方法について

古本で「ホームレスの自立を支援」——チャリボン

読み終わった書籍や DVD を株式会社バリューブックスにお送りいただくことで、社会課題解決に取り組む NPO を支援できる仕組み、「チャリボン」。2013 年 4 月の開始以来、2015 年 8 月末までに 974 名の方から古本をお送りいただき、買い取り相当額の 1,852,075 円のご寄付をいただきました。チャリボンの仕組みや古本のご寄付を通じての社会参加については以下のサイトをご覧ください。

<http://www.charibon.jp/>

【助成金】

公益財団法人パブリックリソース財団

【企業・団体寄付】

有限会社 K・U・V / UBS グループ (UBS 証券株式会社、UBS 銀行東京支店、UBS グローバル・アセット・マネジメント株式会社) / BNP パリバ・グループ / NMC ギャラリー & スタジオ / ドイツ銀行グループ / シティグループ / キーン・ジャパン合同会社 / 株式会社北大路書房 / 有限会社スリースターズ / KDDI 株式会社 / 株式会社ぐみアソシエイツ / 浄土真宗 厳念寺 / モルガンスタンレーチャリティフットサル有志一同 / 一橋大学大学院 国際企業戦略研究科クラス 2014 有志一同

【寄付サイトからの寄付】

公益財団法人パブリックリソース財団 (ギブワン、<http://www.giveone.net/>)

株式会社バリューブックス (チャリボン、<http://www.charibon.jp/>)

【クラウドファンディングからのご支援】

株式会社 Wicrep (moonshot、<https://moon-shot.org/>)

【物資の寄付】

UBS グループ (UBS 証券株式会社、UBS 銀行東京支店、UBS グローバル・アセット・マネジメント株式会社) (医薬品、食品、衣料など) / 認定 NPO 法人フードバンク関西 (食品) / 日本工営株式会社 (衣類) / 動物達の幸せを願う会 (衣類) / どじょっこ田んぼ佐渡 (食品) / 有限会社リフレイン (衣類、食品、日用品) / 地域福祉パワーアップカレッジねりま 7 期生有志一同 (衣類) / 株式会社マックスガイ (金券) / (株) ナチュラルオーガニクス (衣類) / 株式会社東芝 (衣類) / ピープル・ツリー (衣類) / ポートピアグリーンチーム (衣類)

【各地のサポーター組織】

ビッグイシューさっぽろ / 仙台ビッグイシューソサイエティ / NPO 法人萌友 / NPO 法人仙台夜まわりグループ / NPO 法人川崎水曜パトロールの会 / NPO 法人さなぎ達 / 特定非営利活動法人さんきゅうハウス / びよんどネット / 金沢カトリック教会平和の会 / ビッグイシュー名古屋ネット / NPO 法人釜ヶ崎支援機構 / ビッグイシュー日本京都事務所 (社団法人関西厚生協会) / NPO 法人岡山・ホームレス支援きずな / ビッグイシュー福岡サポーターズ / ビッグイシューくまもとチーム / ビッグイシューかごしまサポーターズ

【その他】

グーグル株式会社 / 中央ろうきん社会貢献基金

決算報告

8期は複数の個人の方からの大口の寄付参加により、寄付金収入は7期を大幅に超える4,066万円となり、その結果、経常収支差額は999万円となりました。7期の繰越金293万円とあわせ、1,292万円の多額の剰余金を計上することができました。10周年にむけ、①新しい仕事づくり、②ステップハウス事業、③ギャンブル依存症対策、④スポーツによる社会包摂活動、などの事業に活用させていただきたいと思っています。

【活動計算書 2014年9月1日～2015年8月31日】

科 目	金額（単位：円）		注記 1）事業費の内訳							
I 経常収入の部			事業費内訳		ホームレスの自立応援プログラム		ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案		ボランティア活動と市民参加	
1. 会費収入	12,455,000	12,455,000	生活自立 応援	就業応援	スポーツ・文 化活動応援	若者応援 ネットワーク	住宅政策 提案			事業費計
2. 助成金・補助金収入	281,845	281,845								
3. その他収入										
寄付金	40,664,540									
受取利息	1,893									
雑収入	3,456,813	44,123,246								
経常収入 計		56,860,091								
II 経常支出の部			注記 2）当事者預り金の内訳							
1. 事業費			科目	期首残高	当期預り	期末残高				
人件費			当事者預り金	0	877,900	877,900				
給料手当	10,925,327	17,358,155	合計	0	877,900	877,900				
雑給	3,339,938									
法定福利費	1,873,695									
通勤費	1,219,195									
その他経費										
家賃（光熱費含）	2,960,011									
通信運搬費	1,824,693									
消耗品費	1,630,610									
旅費交通費	3,610,763									
印刷製本費	1,756,136									
業務委託費	1,495,854									
諸謝金	2,078,177									
広報費	3,110,400									
会報費	3,071,600									
会議費	1,397,628									
研修費	93,722									
諸会費	40,000									
寄付金	229,000									
賃借料	1,158,661									
支払手数料	360,893									
雑費	350,161	25,168,309								
2. 管理費										
人件費										
給料手当	990,330	1,318,622								
雑給	66,920									
法定福利費	119,708									
福利厚生費	59,854									
通勤費	81,810									
その他経費										
家賃（光熱費含）	188,936									
通信運搬費	382,208									
消耗品費	254,466									
旅費交通費	594,765									
印刷製本費	267,932									
租税公課	140,000									
会議費	108,738									
研修費	13,670									
諸会費	12,500									
賃借料	212,072									
支払手数料	706,812									
雑費	1,080									
雑損失	145,000	3,028,179								
経常支出 計		46,873,265								
経常収支差額		9,986,826								
当期収支差額		9,986,826								
前期繰越収支差額		2,934,222								
次期繰越収支差額		12,921,048								

【貸借対照表 2015年8月31日現在】

科 目	金額（単位：円）		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	957,984		
普通預金	13,786,026		
未収入金	220,000	14,964,010	
2. 固定資産		0	
資産合計			14,964,010
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	257,200		
仮受金	800,397		
預り金	107,465		
当事者預り金	877,900	2,042,962	
負債合計			2,042,962
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産	2,934,222		
当期正味財産			
増加額（減少額）	9,986,826	12,921,048	
正味財産合計			12,921,048
負債及び正味財産合計			14,964,010

【財産目録 2015年8月31日現在】

科目・摘要	金額（単位：円）		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	957,984		
普通預金（三菱東京UFJ銀行堂島支店）	11,608,483		
普通預金（三菱東京UFJ銀行新宿支店）	270,000		
郵便振替	576,418		
普通預金（ゆうちょ銀行）	1,263,030		
普通預金（みずほ銀行）	68,095		
未収入金（会費クレジット分）	220,000	14,964,010	
2. 固定資産			
	0	0	
資産合計			14,964,010
II 負債の部			
1. 流動負債			
仮受金（㈱ビッグイシュー日本）	800,397		
未払金（㈱マーブル他）	257,200		
預り金（源泉所得税）	107,465		
当事者預り金（生活自立積立金）	877,900	2,042,962	
			2,042,962

監 査 報 告

1 監査の方法の概要

業務執行については、代表理事等から、現在会員数、活動内容等を聴取し、財産の状況については、損益計算書、貸借対照表の開示及び説明を受けました。他方、適宜、総勘定元帳、入金伝票、領収書、通帳の写し、郵便振替票等につき検討を加えました。

2 監査の結果

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金の業務報告及び決算報告について、2014（平成26）年9月1日から2015（平成27）年8月31日までの監査を行った結果、客観的資料にもとづき明瞭かつ正確であって、適法であることを認めます。

なお、業務または財産に関して、指摘すべき、不正の行為または法令、定款違反の重大事実はありません。

2015（平成27）年10月13日

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金監事

木 原 万 樹 子

ビッグイシュー基金は、有限会社ビッグイシュー日本（※）を母体に 07 年 9 月に設立された、ホームレスの人々の自立を応援する非営利団体です。12 年 7 月 1 日に認定 NPO 法人となり、当基金への寄付は税制優遇されることになりました。ビッグイシュー基金は①ホームレスの人々の自立応援、②ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案、③市民のボランティアや社会参加、という 3 つを柱とする活動に取り組みます。そして、貧困問題と社会的排除という氷山の頂点にあるホームレス問題を中心に、排除と貧困の問題解決に挑戦します。それらを通して市民、ホームレスの人とともに、誰にでも居場所と出番のある包摂社会の形成をめざします。

「機会」豊かな市民信頼社会を——ビッグイシュー基金が目指すもの

ビッグイシュー基金は、自立の応援、モノやおカネではない「チャンス」の提供、ホームレスの人をパートナーにする、という考え方によって、多くの NPO、企業や政府と協力しホームレスの人々の「自立」、「自助」の応援を活動の基本方向としています。

市民応援会員、寄付参加者などを中心に、多くのボランティアや市民とともに、市民同士の協力と共同を促進し、市民が当事者になれる活動を行い、再チャレンジしやすい「機会の豊かな」市民信頼社会の形成に貢献したい、と考えています。

そして、上記の 3 つの基本応援プログラムに加え、ホームレスの人々が望めば、サッカー、文学賞などスポーツ・文化のクラブ活動への参加もできます。そして、ホームレスの人が当事者として、生きる喜びや誇りを取り戻し、自ら問題解決の担い手になってもらいたいと考えています。

団体概要

- 名 称 認定 NPO 法人 ビッグイシュー基金
- 設 立 2007 年 9 月設立、2008 年 4 月内閣府より NPO 法人の認証、2012 年 7 月認定 NPO 法人格取得
- 所 在 地 [事務局本部] 〒 530-0003 大阪市北区堂島 2 丁目 3-2 堂北ビル 4 階
Tel 06-6345-1517 Fax 06-6457-1358
E-mail : info@bigissue.or.jp
[東京事務所] 〒 162-0065 東京都新宿区住吉町 8-5 シンカイビル 201 号室
Tel 03-6380-5088 Fax 03-6802-6074
- 役 員 理事長 佐野 章二 (有限会社ビッグイシュー日本共同代表)
理 事 井上 英之 (慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘准教授)
枝元 なほみ (料理研究家)
米本 昌平 (東京大学客員教授)
水越 洋子 (『ビッグイシュー日本版』編集長)
監 事 木原 万樹子 (木原法律事務所弁護士)
相談役 雨宮 処凛 (作家)
- スタッフ 澤正輝 中原加晴 長谷川知広 中村未絵 吉武華子 池田真理子
高野太一 栗原奈津子 川上翔

(※) 有限会社ビッグイシュー日本とは？

ビッグイシュー日本は、「ホームレスの人々の救済ではなく仕事を提供する」ことを目的に活動している有限会社です。ホームレスの人々の自助・自立を促すために雑誌を制作し、路上で彼らに独占的に販売してもらい、その売り上げの 50%以上を収入にしようという仕組みをつくっています。03 年 9 月から 15 年 8 月までの 12 年間で 1,635 人が販売者に登録し、184 人が新たな仕事を心得て自立しました。また、累計 698 万冊を販売、10 億 1,696 万円の収入をホームレスの人たちに提供しました。

寄 付

税制優遇の対象です。寄付額の「(寄付金合計額 - 2 千円) × 40%」が納付税額から返金されます。(雑誌送付などの特典はありません)



出合い寄付 5,000 円 / 1 口
(返金額は 1,200 円です)



つながりウォーク寄付 10,000 円 / 1 口
(返金額は 3,200 円です)



実践応援ラン寄付 20,000 円 / 1 口
(返金額は 7,200 円です)



社会包摂マラソン寄付 50,000 円 / 1 口
(返金額は 19,200 円です)



市民信頼社会寄付 100,000 円 / 1 口
(返金額は 39,200 円です)

● 任意額寄付

事務手続き上 1,000 円からの受付となります。

● 法人寄付

損金算入限度額の枠が拡大されます。

● マンスリー寄付

月額 1,000 円 × 1 口～。

(HP から受け付けています)

● 遺産・相続寄付

寄付された相続財産には相続税がかかりません。

市民応援会員 特典があります。(税制優遇の対象外)



にっこり応援会員 年会費：15,000 円

【特典】年次報告書(年1回)の送付

「ビッグイシュー基金通信」掲載の『ビッグイシュー日本版』1冊1年分の送付&最新号にお名前を掲載



ひとり立ち応援会員 年会費：50,000 円

【特典】年次報告書(年1回)の送付

「ビッグイシュー基金通信」掲載の『ビッグイシュー日本版』1冊1年分の送付&雑誌に1年間お名前を掲載、ビッグイシュー基金パーティにペアでご招待(年1回)

企業・団体「社会再生」サポーター 特典があります。(税制優遇の対象外)

キャリア再形成・サポーター会員 年会費：250,000 円

社会復帰・サポーター会員 年会費：500,000 円

社会再生・サポーター会員 年会費：1,000,000 円

＜振込み＞ 郵便振替：口座番号 00960-6-141876 口座名義 NPO 法人ビッグイシュー基金
お振込みの際は寄付・会員の別、連絡先(お名前、郵便番号、ご住所、電話番号)を明記ください。

＜クレジットカード＞ ビッグイシュー基金のホームページ (<http://www.bigissue.or.jp>) からご利用いただけます。

銀行での振込みをご希望の場合は、大阪事務所(06-6345-1517)までお問い合わせ下さい。

※ 個人の方のご寄付の領収書は1月～12月入金分をまとめて翌年1月下旬に発行・送付させていただきます。
(これを、確定申告時に提出していただくと納付税額から一定額が返金されます)



2015 年 11 月 15 日発行

認定NPO法人ビッグイシュー基金

(大阪事務所) 〒 530-0003 大阪市北区堂島2丁目3-2 堂北ビル4F

TEL : 06-6345-1517 FAX : 06-6457-1358

(東京事務所) 〒 162-0065 東京都新宿区住吉町8-5 シンカイビル 201 号室

TEL : 03-6380-5088 FAX : 03-6802-6074

E-mail : info@bigissue.or.jp URL : <http://www.bigissue.or.jp>

デザイン (株) くとうてん